

## D—8 女子学生の基礎体温に関する研究 (第5報)

山形大 長岡 佑

1. 前回までは女子学生100名の、松本・大倉両氏によるBBT型分類と、飯塚・吉田両氏によるBBT型分類とを比較検討し、前者によるBBT型別、ABO式血液型別にそれぞれ、周期日数、回数、持続日数、随伴症状の特徴を述べ、さらに月経周期の変動に関して述べたが、今回はおもにBBT型の反復性について検討した。

2. 前回と同じ。

3. (1) 最頻型の人数を学年別、BBT型別にみると、I型は4年次が多く3、2と少ない。最頻型の反復率を学年別、BBT型別にみると、I型は加齢に従って高くなっている。反復率50%以上と50%以下に分けてみると、I型の50%以上は4年次が非常に多い。(2) 初潮年齢別、BBT型別に最頻型の人数をみると、I型は12~13歳のものが多く、14歳以上は少ない。最頻型の反復率を初潮年齢別、BBT型別にみるとI型は12~13歳が高く、14歳以上は低い。反復率50%以上と以下に分けてみるとI型の50%以上は12~13歳が非常に多く、II, III, IV型も同様に多い。(3) 無排卵周期と黄体機能不全周期発現の誘因と思われる時期とその誘因について検討すると、誘因の時期で最も多いのは前月の排卵以後で、少ないのは当月の後半である。誘因は、かぜ、旅行、注射などが多い。無排卵型、黄体機能不全型の発現とその前後のBBT型との関連については、前後が二相性BBT型のものが非常に多く、無排卵型、黄体機能不全型を反復するものは非常に少ない。